

ありがとう 赤平市公民館

昭和49年開館の赤平市公民館。平成10年度には年間41,000人余りの利用があり、赤平市民の社会教育活動を支えてきました。その後、「交流センターみらい」のオープンや公民館で活動するサークル数の減少などもあり、平成14年度には年間利用者数が29,000人台まで落ち込んでしまいました。

平成15年7月から、NPO法人赤平市民活動支援センターが指定管理者として、同館の管理運営を行うようになり約4年が経過しようとしています。この間、“市民による市民のための公民館”を目指して、4名の専従職員とともに、赤平が大好きで、赤平を活気付けようとする約20名のボランティアスタッフが、たくさんの皆様の励ましや協力をいただきながら今日まで活動してまいりました。平成16年度には利用者数も30,100人台に回復するなど、市民のための公民館としての存在を復活することができたと考えています。

今回、赤平市公民館の休館にあたり、関係者の皆様から声を寄せていただいておりますのでご紹介します。

さようなら公民館

赤平手話の会会長 高橋紀子

赤平手話の会は昭和49年9月に公民館講堂で行われた設立式から33年になります。

障害は個性であり、手話の技術の向上は雙者の聞こえないという問題を解決する事、そしてなにより会員と雙者の隔たりのない交流を重んじて活動してきました。

この間、赤平市手話奉仕員制度ができました。昨年には北海道ろうあ連盟の手話通訳認定試験2級に、赤平会員初の合格者も誕生しました。手話を学ぶことで、いつの間にか自分達自身が助けられ、気がつけばこれが私達の生涯学習になっています。そして、私達の活動は、公民館と共にあったと言っても過言ではありません。公民館はその役割を充分果たして閉館が決まりました。その日が近づくにつれ寂しさが募ります。

公民館最期の活動の日は、会員一同“館”に一礼して締め括ろうと思います。

関係者の全てのみなさん、長い間有難うございました。

◎休館す公民館の窓硝子

いくおしき湧きてこの身に痛い

◎最後なる公民館まつりの生花の

シンポジウムは凜と華や

◎淡雪のちらちら舞いぬ

いつの日か公民館の再会ねがう

堀口 淳子

ご案内

4月1日から旧富良野信金店舗跡で

まちなか公民館「ラビ館」

と称して、NPO法人赤平市民活動支援センターが移転します。

《市民手作りの公民館的な存在として》

- ★各団体・サークルの活動や研修の場として活用。
- ★当センター主催の生涯学習講座のメイン会場として利用。
- ★赤平市公民館は休館しますが、赤平市委託事業として「公民館講座」を企画運営し、「ラビ館」をメイン会場として、学習の機会を提供。